

令和元年度年報発刊にあたって

ここに、令和元年度に当研究所の各研究員が行った検査・監視・調査研究の成果等を取りまとめた京都府保健環境研究所年報第65号（2020年）をお届けいたします。

平成26年度に策定されました基本構想に基づき、平成29年10月から京都市衛生環境研究所と共同整備が当研究所の敷地内で進められ、令和元年8月に地下1階地上3階からなる新しい研究所の建物が完成し、両研究所は同じ建物内で活動を開始しました。新研究所の開設を機に、両研究所が強く連携することにより試験検査機能のパワーアップを図り、感染症や環境汚染などのリスクや脅威に迅速かつ的確に対処し、府民の皆様方の健康増進及び環境保全にかかわる予防的かつ戦略的危機管理拠点の構築を目指して参りました。

このような取り組みを開始してまもなく、中国湖北省武漢市で「原因不明のウイルス性肺炎」が発生し、武漢市から中国大陸に広く感染が拡大いたしました。このウイルスは新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）と命名され、それによる感染症はCOVID-19と呼称されました。その後SARS-CoV-2は瞬く間に全世界に拡散され、世界保健機関（WHO）は、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」であることを宣言しました。わが国においては、令和2年1月中旬に初めてCOVID-19患者が報告され、国立感染症研究所から全国の地方衛生研究所に検査用プライマーが緊急発送されました。当研究所は、京都市衛生環境研究所とともにSARS-CoV-2のPCR検査システムを至急立ち上げ、以降、京都府民の健康を守るため一致協力して日夜努力を続けております。

当研究所におきましては当初、細菌・ウイルス課でSARS-CoV-2のPCR検査を実施しておりましたが、行政検査数が飛躍的に増加し、また、COVID-19の拡大がかなり長期間に及ぶと推察されましたので、細菌・ウイルス課の他に、理化学課、大気課、水質・環境課等の応援を得て、当研究所の総力を挙げてPCR検査に取り組んでおります。

そのような状況下ではありましたが、令和元年度年報の掲載内容は、SARS-CoV-2陽性例の疫学的特徴を検討した報告のほか、流通鶏肉のカンピロバクター菌属の性状比較に関する報告、食品中に残留する抗生物質の試験法に関する妥当性検証結果、土壌及び海底堆積物中のプルトニウムの起源推定に関する報告、一般環境及び鉄道車両内の騒音に関する周波数分析結果、環境試料中のストロンチウム90濃度の経年変化に関する調査結果、河川白濁事故の原因究明に関する報告を掲載することができました。本年報をご高覧いただき、忌憚のないご意見・ご批判をいただければと思います。

今後とも、皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月

京都府保健環境研究所 所長 前川 平